

令和4年度第4回 新潟市子ども・子育て会議 会議概要

開催日時	令和4年3月29日（水）午後1時00分～3時00分
会 場	白山会館 2階 胡蝶
出席委員	小池委員、椎谷委員、茨木委員、植木医院、海津委員、郷委員、斎藤委員、佐藤委員、鈴木晴美委員、竹内委員、違委員、長谷川委員、平澤委員、深海委員、星井委員、眞杉委員、山岸委員、吉田委員 (出席18名、欠席2名)
事務局 関係課 出席者	こども未来部長、こども政策課長、こども家庭課長、児童相談所長、保育課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐、教育総務課長 他 各課 担当者
傍聴者	1名
内 容	<p>【議事】</p> <p>(1)新・すこやか未来アクションプランの更新について</p> <p>資料1-1 新・すこやか未来アクションプランの更新について</p> <p>資料1-2 第3期計画策定工程表(案)</p> <p>○事務局より、新・すこやか未来アクションプランの更新について、説明を行いました。</p> <p>○委員からは、次の意見・質問がありました。</p> <p>(小池会長)</p> <p>私から1点確認させてください、こども基本法を受けたこども計画の策定について触れられていますが、今の時点で方向性については未定という理解でよろしいでしょうか。</p> <p>(事務局)</p> <p>今後、国が定める大綱の内容などを踏まえて決定する予定ですので、現時点では方針は決まっておりません。</p> <p>(小池会長)</p> <p>ありがとうございます。こども計画については努力義務とはなっていますが、各自治体が検討するところだと思いますので、皆様と一緒に検討していきたいと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>(2)新潟市子育て市民アンケートの調査結果(概要)について</p> <p>資料2 新潟市子育て市民アンケートの調査結果(概要)について</p> <p>○事務局より、アンケート結果について、説明を行いました。</p>

○委員からは、次の意見・質問がありました。

(小池会長)

ただいまの結果の内容につきまして、皆様からご意見、ご質問等を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

(竹内委員)

連合新潟地域協議会の竹内と申します。よろしくお願ひいたします。

質問として、すみません、最初のほうで聞き逃していたら申し訳ないのですが、1 ページ目で、アンケートの回収率は、前年と比較してどのくらいだったのかということと、回収率 50 パーセント以下ですけれども、人数から見ると、これは傾向がつかめているという認識なのかどうかということをお伺いさせていただきます。

(小池会長)

では、事務局からお願いしたいのですが、前回調査の回収率は調べていただいて、今回の回収率 42 パーセント、44 パーセントというのが妥当な数字なのかというご質問かと思ひます。

(事務局)

前回の回収率が 42.7 パーセントですので、今回 43 パーセントですので、少し、わずかによくなったと。しかし、大体同じくらいと言ひえるかと思ひます。

今回の回収数が合わせて 688 人ということで、これが十分かどうかという部分なので、今回、配布数ももともと 800 人ずつという数です。半分より少ない回収率だったというのは残念ではあるのですが、ある程度、ここから傾向を見て取れるのではないかと考へております。

今回、中間の調査であるのですが、計画策定のニーズ調査になると、配布数がかなり多い数で調査することになります。

(竹内委員)

分かりました。

私の感覚的なところで大変恐縮なのですが、アンケートが来て出せなかった人は、そのアンケートに答へる暇もないというか、時間もなくて捨てたりできなかつたりという人が多いのかなと、私だったらお思ひます。そうすると、アンケート結果の中にいくと、例えば、問 2 だと、費用面というところがとても突出しているではないですか。これがもし全員が答へてくるとなると、ここがもっと大きくなるのかなと感じています。そうすると、やはり、ここが大きな課題なのかなと感じます。別の調査だと、もっとたくさん配布というところはあつたので、できる限りウェブとか、公式 LINE という調整が難しいのかもしれないのですが、調査対象人数を多くすれば、もっと大き

な傾向としてつかめるのかなと思ったので、ひとつ、意見としてよろしく願いします。

(事務局)

貴重なご意見、ありがとうございました。

(小池会長)

回収率については、多分、今、皆さん子育て中の方々のところに色々なアンケートが行っている中で、よくこれだけ答えてくださったというのが正直な感想です。4割代に乗ったというのはいいデータが出たのではないかと考えています。抽出の方法とかにつきましても、調査の手續きにきちんと従ってやっておられますので、総母数の中から無作為抽出して行うという前提のアンケートの仕組みにされていますので、一応、母数を反映したデータとして判断していいかなとは思っております。

一方で、確かに、どういう方々が答えられなかったのかということについては、やはり心配りをしておく必要もあるのでしょうか、今回、WEBフォームを導入していただいたことで回収率が高くなったということもあったのではないかと考えております。子育て世代の方々が、郵送もそうなのですけれども、ウェブ等でスマートフォンで回答可能なアンケートについて、かなり親和性の高い方々が増えてきているというのも現状でありますので、そういったものを組み合わせながら、今回、展開していただけたのが、これだけの回収率になったのかなと思いつつながら、見せていただいております。

いずれにしても、お忙しい方々というか、皆さんがこうやって答えてくださったというのは事実ですので、データは丁寧に扱っていきたくて思っております。貴重なご意見、ありがとうございました。

(椎谷委員)

今ほど、小池会長からもお話がありましたけれども、本当に子育てで忙しい中で、たくさんの回答をしていくというのはとても時間もかかるし、大事なことだと思います。

それで、以前、水族館の利用券か何か、答えた方に抽選でということがあったのですけれども、もしかしたらそういったことも、答えていただいた方にプレゼントしてもいいのではないかと、またそれを復活していただければいいかなと思っております。

それで、今後のお願いなのですが、今回、資料として出していただいたもので、4ページの「実際にもつ子どもの人数が理想より少ない理由」がありますが、やはり、それと比較できるものがあつたほうがいいと思うのです。私は令和元年のものをインターネットで見たのですけれども、そのときは、就学前保護者と二つに分かれていたと思うのです。それで、私が今回持ってきたのが、就学前保護者の、令和元年のものを見比べてみたのですけれども、そこ

でとても気になったのが、「育児が精神的・肉体的に大変だから」というのが前回、令和元年のときに就学前保護者が 18.5 パーセントだったのですが、今回、こちらは統合されていますけれども、23.2 パーセントで増えているのです。ちょうどコロナ禍で子育てをされている方とかというのは本当に精神的にも肉体的にも大変だったと思います。こういった、どのように変化されているのかという参考資料みたいなものがあつたほうが、読み解くといえますか、こういう状況なのだなということが分かりますので、今後はそのようにしていただければいいかなと思います。ここの「育児が精神的・肉体的に大変だから」という数値が増えたことはとても大変なことだと思っています。それを改善するために、またこれからご説明がありますけれども、来年度について、いろいろあるかと思いますが、やはり、アンケートは大事ですので、よろしくお願ひしたいと思います。

(事務局)

ご意見、ありがとうございます。先ほど、椎谷委員からご指摘のありました、マリンピアの入場券のプレゼント、今回もつけているということです。

今回、概要版ということで、一部抜粋してご紹介しているのですが、実際はもっと質問数も、実はこの何倍も多くなっているのですが、こちらの結果ですとか調査対象者ごとの結果の数字なども、後ほど詳しく集計してからになります。ホームページ上で公表してまいりますので、またご確認いただければと思います。

(小池会長)

マリンピアは毎回ですか、最近はつけてくださっているかなと思いますので、ありがとうございます。

今、ご報告がありましたように、全体の詳細なデータについては、今後、新潟市のホームページにアップしてくださるということでしたので、アップされましたら、お手数ですが、委員にも報告していただくとありがたいと思います。皆様もお忙しいところとは思いますが、一緒に目を通していただくとありがたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

そのほか、お気づきの点等、ご意見等ありませんか。

よろしいですか。大変なデータが、新潟市として本当に経年的にずっとデータを取ってくださっている、そういう継続性、連続性ととも現状について把握するというのを、皆さんと一緒に進めていければと思っております。

私の全く個人的な意見ではあるのですが、このデータを取っていただいたのは、本当にコロナ禍の中で子育てをされている方々を対象に取っていただいたデータで、コロナ禍で新潟市の子育てのしやすさがそれほどデータとしては落ちずに済んだというのは、皆さんがいろいろな形で関心を持ってくださり、一人一人子育て中の保護者の皆様もちろんそうだと思いますし、行政や関係団体の皆さんがそれぞれの立場で子育てについて一生懸命、コロナ禍でど

うやっぴいけば子どもの育ちが守られるのかとか、子育てが守られるのかというところを取り組んだことが、一つのデータとして出たのかなと思ひながら拝見させていただいておりました。なかなか厳しい状況の中ではありましたがけれども、皆さんと一緒に力を合わせて、新潟市での子育て環境を守ることができた一つの成果かなと思ひております。

(平澤委員)

ホームページ等で公開されるということですから、また市民の反応等も参考にさせていただきたいと思ひます。

子ども・子育て会議ですから、簡単に、データで全部、また必要な分析、解析をしてほしいと思ひますけれども、特に、8ページの間6、それからもう一つは、4ページの間2でしょうか、この辺は特にまた重点的にしてほしいと思ひます。

そして、1点だけ申し上げたいのは、9ページの間8です。「あなたにとって、新潟市は子育てしやすいまちだと思ひますか。」よく、こういう調査に選択肢としてあるのですが、「子育てしやすいまちだと思ひる」、「どちらかといえぱ」という。よく、「どちらかといえぱ」という選択肢があるのですけれども、やはり、子育てしやすいまちだと思ひるとならなければいけないわけですので、どちらかといえぱしやすい、どちらかといえぱしにくいと。この辺、何といひますか、非常に心が揺れる部分ではないかとも思ひます。何といひますか、調査を受ける、回答する方から見ても答えやすいというか真実を伝えやすいというか伝わりやすい、あるいは、回答を得てそれを分析する方からも中身が伝わりやすいというか把握しやすいというか、これは日本語の表現になるのかあるいは解析の手法によるのか分かりませんが、せつかくかなりの高額な経費をかけてやる調査ですから、その辺に努力をなささせていただきたいと思ひます。

ただ、冒頭言ひましたとおり、よくこういう表現があるので、非常になれた表現ではあるのですけれども、私は常日ごろ疑問を持っておりましたので、敢えて、いいならいい、悪いなら悪いわけですけれども、どちらかといえぱいい、どちらかといえぱ悪いなどというあれは非常に、腹の中に何か思ひがあるということになります。そうであれば、またその辺の中身を拾ひ出さなければいけませんので、何かそういうところで一工夫必要かなと思ひますので、一つご検討賜りたいと思ひます。よろしくお願ひします。

(事務局)

今のご意見で、最後の、「あなたにとって、新潟市は子育てしやすいまちだと思ひますか」という設問なのですが、子育てに関して、実際どうですかということ、実際の調査の中ですと、36問という多い設問なのですが、それらをずっと聞いてきて、最後に子育てしやすいまちだと思ひますかというものを持ってきているという作りにはしております。それで、確かに、どちらかといえぱというのはなかなか、あいまいという感じではあるのですけれども、真ん中を

作らなかったという部分で、どちらでもない、どちらとも思わないという答えはなく、どちらに、少しでも傾くほうにも答えていただければという思いで、五つにせず四つの選択しにしたというところは意図したところではあります。

それで、実は、ここでは抜粋ですので紹介していませんが、その次に、どのようなところが子育てしやすい、またはしにくいと感ずるかというように、設問をたくさん用意しまして、そこで三つまで選んでくださいというものも、この次の質問が実はありますので、そちらも後日ご覧いただければと思います。

(小池会長)

今の平澤委員のご意見に対して、データもより詳細なものも紹介されているということですので、ぜひ、皆さんも一緒に確認していただければありがたいと思います。

そのほか、お気づきの点等、いかがでしょうか。

ないようでしたら、また改めてご質問等があれば伺いたいと思いますので、次の案件に移りたいと思います。ご意見、ありがとうございました。

それでは、続いて、議事3、令和5年度のこども未来部の主な取り組みにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(3)令和5年度のこども未来部の主な取り組みについて

資料3 令和5年度のこども未来部の主な取り組みについて

○事務局より、こども未来部の新年度予算について、説明を行いました。

○委員からは、次の意見・質問がありました。

(小池会長)

ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見等はありませんか。

(佐藤委員)

3ページの合計特殊出生率なのですが、些細なことなのですが、全国の値を上回るなど、一定の成果と評価しているのですが、この根拠を教えてください。単純に全国平均より高いことだけでしょうか。変化を見ると、今、手元にあるのですが、合計特殊出生率はどこも一様にあまり変わっていないのです。それから、新潟市が飛び抜けてよくなったということではないような気がするのです。これは一定の成果と断っているのかどうか、些細なことなのですが、あまり根拠がないのかなという気がしたのです。アセスメントというのはとても大事なので、もっと上げなければいけない課題ではあるので、あまりこれでこの政策がいいのではないかというのが少し引かかるなということが1点ありました。

それから、産後ケアへの助成を政令市トップレベルに拡充、これは私も非常に評価しています。大事なことだと思いますし、普通の人たちも私に関係している病児保育でもそうなのですが、助成を増やすということは、お金を出すだけではなくて、内容もコミットすべきだと思います。こういうような内容でやってほしいということを行政から提案していくということが大事で、お金をつけたから充実するというだけではいけないので、産後ケアがどのように行われているかということは各施設でも少し違いがあると思いますし、その辺に関する指導も、ぜひ、考えていただけたらと思います。

それからもう一つ、次のヤングケアラー・コーディネーターは全然不勉強で分からなかったのですけれども、ヤングケアラー・コーディネーターを新たに設置、これは私も方針としては非常にいいと思います。いいのですが、今までの保育コンシェルジュでもそうなのですけれども、新しい制度を導入したときに、その中身が問題で、例えば、保育コンシェルジュだと、どういう人にどういう内容を依頼するかというものがあまりないまま、資格だけを与えているのです。その辺の、例えば、ヤングケアラー・コーディネーターをやるのであれば、どういう内容でどのような方に依頼するのかという方針が出ていたら、教えてください。

(小池会長)

今、3点質問があったかと思いますが、順に回答していただきたいと思います。

(事務局)

こども家庭課の堀です。

私からは、産後ケアについて、まず、お願いいたします。委員お話のとおりで、新年度から、恥ずかしながら新年度からになるのですけれども、産後ケア、宿泊、デイ、訪問と三つのメニューがありますけれども、それぞれに関して、担っていただく事業者の方に、いわゆる条件とか要件、こういうことを必ず守ってくださいと。例えば、助産師を配置してくださいとか、そういった要件を明確化、明文化して、それで受けられるよという方々に担っていただくという取組みをはっきり新年度からやらせていただこうと思っておりますし、お話のとおり、その後どうだったかという辺りについては、実地監査みたいな堅苦しいものではないですけれども、そこはしっかりと内容を確認していきたいと考えております。

(事務局)

最初にご指摘の合計特殊出生率です。一定の成果と簡単に書いてしまったのですけれども、新潟市としましては、合計特殊出生率、全国の傾向と同様に下がっていた一方だった中で、少しでもそれを上向きにというか、向上させるための施策ということで、出会い、結婚の支援であるとか、切れ目のない支援を

していくということに取り組んでまいり、一定の成果というのは言い過ぎかもしれないのですけれども、ずっと下向いてきていた数字が、若干ですけれども、上回るというか、全国平均を多少上回るという形に逆転したことがありますので、それは一応、数字上の事実ではあるなというところで、少し言葉としては言い過ぎかもしれないのですが、どの取組みが直接効果に出るということはいえない部分がどうしてもありますが、さまざま取り組んできたことが何らか一定の成果は得られたのではないかと考えての表現です。

もう1点の、ヤングケアラー・コーディネーターなのですが、これは全く新規で設置する人材というか人なのですけれども、これまでもヤングケアラーの問題が顕在化してきた中で、その問題への対応はしてきているのですけれども、専門的にさまざまな福祉サービスに、ヤングケアラーそのものもそうなのですが、その課題がある、支援が必要なご家庭をつないでいくためのいろいろな既存の福祉サービスですとか、さまざまな制度につないでいく部分のコーディネートのところが、今現在、少しまだ弱いのかなと。そこが必要だということから、県で先に出てヤングケアラー・コーディネーターは導入しているのですけれども、新年度、実は、2名なのですが、新潟市はこれだけ広く、区も八つあるのですけれども、最初、何と申しますか、業務量も見えない中、いきなり全部の区にという人員配置も難しいという事情がありまして、最初は、まずは周知啓発ですとか、その周知啓発も子どもたち自身への周知もありますし、子どもとかかわる、家族をはじめとした大人たち、あと、いろいろな関係機関の方々への研修とか周知といったものを、まずは重点的に取り組むための人という形でつけるものです。

(佐藤委員)

どういう方が委嘱されるのですか。

(事務局)

立場としては、正規職員ではなくて、会計年度任用職員としてなのですが、資格要件をつけての募集で、社会福祉士や精神保健福祉士、臨床心理士等、こういった資格をいずれか持っている者という形で募集いたしました。

(竹内委員)

5ページの、ICTを活用し、こどもたちの安心・安全対策を強化というところで、ICT、例えば、どのようなものとか、導入を検討している者があるかなどがあれば教えていただきたいと思います。

(事務局)

保育課の浅間です。ご質問、ありがとうございます。

ここでのICTはいくつかありまして、まずもって一番大きいのは、保育業務支援システムということで、民間の保育園では多く導入が進んでいるところ

なのですが、例えば、入退園の管理だとか保護者への通知、あと、保育の計画だとか記録を一元的に管理していく、保育の事務面の補助をするシステムですが、まだ市立園にはこういった統合的なシステムが入っておりませんでしたので、まず、市立園に導入して、職員の負担を減らして、子どもを見られる時間を充実させていくというところと、併せまして、私立の園についても、まだ導入、更新をしたいというところに補助を出すというところが大きな1点です。

あと、今年度、園バスでの取り残しで死亡事故が起きたということを国も重く受けまして、こういったICT等を活用した支援メニューを多く出してきた中で、今回、12月ではバスの中に置き去り防止装置をつけるという予算措置であったり、この2月議会、ここに書いてある内容につきまして、今ほどの業務支援システムのほかに、子どもが園外活動のときに見失うことがないように、GPSを活用したICタグを子どもにつけていただいて、万が一あってもすぐに分かるような機器の導入だったり、あと、お昼寝、主にゼロ歳児、まだまだ寝返りが十分にできない、うつ伏せになって危ないというところ、そういったうつ伏せになったときにお知らせしてくれるような事故防止の装置を導入したいという園に補助を出させていただくというメニューを、今回、これまでなかった分も含めて拡充させていただいたという内容です。

(竹内委員)

分かりました。ありがとうございます。そういったICTを活用して、保護者の安心・安全にもつながると思いますし、保護者も、育てやすいのだという意識も向いてくると思うので、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

ちなみに、連絡帳のアプリとかは市が管理しているようなものではない、推進しているようなものではないのですか、

(事務局)

それぞれ園で対応して、その導入費用を一定程度援助させていただいているというスキームになります。

(竹内委員)

分かりました。ありがとうございます。アプリについても、私は実際に子育てしていて、日中でもチェックできるので、男性側としても子育てとか連絡帳のようすにコミットしやすいということもありますし、これから連絡帳アプリがない園に転園するのですけれども、そうすると、妻が嫌がってというか、アプリじゃないんだみたいな感じになっていたので、やはり、育てやすいツールというのは、スマートフォンの連絡帳アプリなのかなと思うのです。ここに含まれるかは分からないのですけれども、安心・安全、育てやすいというところを強化、推進していただければよりありがたいと思いますので、ぜひ、お願ひいたします。

(事務局)

ご意見、ありがとうございました。

(小池会長)

そのほか、お気づきの点とか感想とかでもかまわないのですけれども、よろしいでしょうか。

(植木委員)

植木です。

今のことに少し関連して、ICT等の導入というのは、安全・安心の管理につながるものという、有効な手段だと私も思います。ただし、こうしたさまざまな新しい機能の導入が、現場の保育士の労務負担につながらないように、むしろ軽減の方向に向くようなやり方が重要だと思うのです。その辺りの工夫や対策はどのようにお考えでしょうか。

(事務局)

今回、市立園に導入するに当たりましては、やはり、導入に際しまして、デモという形で、園の代表の方から、入れるシステムとは別かもしれませんが、こういったシステムで今、広くICT化が進んでいる園はしていますということで、広く触れてもらって、まずは導入してもらおうという、導入前の取組みであったり、導入後も、当然、すぐ100パーセント使えるわけではないので、そういった困りごとだったり使い方だったりというところは、やはり手厚くフォローしながら、負担はゼロにはできませんが、その負担の先には十分メリットが出るのですということも、こちら体制をきちんと想定しながら、そのリスクを低減するような対応策は、今、考えております。

(小池会長)

ICTは、ぜひ、いろいろな活用促進、やはり、公費はどうしてもなかなか難しいところがあるので、日々それに追われる部分もありますので。ただ、今、事務局からありましたように、ゴールとしては軽減というところにつながっていくようなところは大事にしていきたいと思います。

(山岸委員)

山岸です。よろしく申し上げます。

5ページに、すべての子どもが豊かな子ども期を過ごせるまちにと子どもたちの豊かな育ちを地域と一体となって推進という文言があるのですけれども、その中身としては、すこやかパスポートとかヤングケアラーと書いてありますが、そういったところを中心に考えておられるのでしょうか。実は、子どもたちの豊かな育ちというのはそこだけではなくて、精神的なものもともあると思っていて、例えば、公園で遊んでいると、最近公園の周りからうるさいと苦情があったり、それから、朝のラジオ体操を夏休みにやろうとして

も、音楽をかけないでくれとか、本当に子どもたちを豊かに育てるための、自分たちが子どもに経験したようなことも今、経験させるのが難しいような時代になっています。そこについて、新潟市はどのように考えているか、よかったらお聞かせください。

(事務局)

ここは少し分かりやすいように、キャッチフレーズというか、入れさせていただいたのですけれども、まず、子ども条例の、豊かな子ども期を過ごすというのは、当然、今、ここに書いてあるような取組みのほかに、私たちから冒頭にあいさつさせていただいたとおり、まずは、子ども自身に自分が権利を有しているということを理解していただいて、さまざまな場面で自分の意思を表明していただいて、それが家庭の中ですとか学校の中で尊重されていく。大人がそれを十分理解したうえで子どもとかかわっていくということが大切だと思いますし、地域の中で、また、子育てしている方々以外もその理念を尊重していただいて、子育て家庭と子どもたちがどうやって新潟市の中で生き生きと暮らせるか、豊かに過ごせるようになるかということを経験していただくことが一番大事なのかなと思っています。

あと、最後のところに、子育てを応援するまちづくりの推進というところ、先ほどおっしゃったとおり、さまざまな場面で子どもの数が少なくなってきて、やはり、子どもの声をなかなか聞かなくなった。そういったところで、子どもの上げる声に驚いたり、また、昔はいろいろ子どもとかかわる部分が、親戚ですとか、あったのですけれども、それもなくなってしまって、どうやってかかわったらいいか、応援したいけれどもどうやったら応援できるかということが分からない方々もたくさんいらっしゃいますので、子育て家庭の方々の困り感を、当然、我々もお伝えして、このように応援してあげるといいですよということを、新潟市としてPRしていきたいと考えています。

(山岸委員)

やはり、今おっしゃったように、地域の大人たちの世代と子育て世代のかかわりがとても少なくなってきていて、子どもに対する理解が、高齢者の方が増えて少なくなってきているのも少し感じています。子育て世代のお母さんたちも、本当はとても困っていて、お金も確かにそうなのだけれども、豊かに育てられるような質の部分で、新潟市が安心して子育てできる地域であれば、もっと、子どもも生きやすくなったり育てやすくなったりするのではないかというのは、現場の声も聞いているので、質問させていただきました。とても新潟市は一生懸命取り組んでいるので、その辺りでも。とても抽象的なのですけれども、精神的な部分、環境的な部分もつながるといいなと思っています。

(斎藤委員)

今、どうしようかなと思ったのですけれども、言われたので、少しあれなの

ですけれども、子どもと子育てにやさしい新潟へと確かに書いてあるのですが、子育てにはやさしいと思うのですけれども、これを見る限りは、子どもにはあまりやさしくないという感じがするのです。子どもと子育てとありますので、これは分かれているのか分かれていないのか、文言的には分からないのですけれども、例えば、今言われたように、子どもはどう思っているかという、ICTを活用しているからおれは安全なんだなどは思わないわけです。それよりも、やはり、もっと子どもたちというのは、例えば、我々がしっかり、そのシツの中で生き生きと生きるとか楽しく生きるとか、何というのですか、自分を出しながら思いっきり遊ぶとかそういうことが子どもにとって必要であって、それが子どもにとってやさしいことだと思うのです。なので、恐らく、ここだけではなくて、新潟市全体で考えることなのではないかと思うのですが、ぜひ、今、山岸委員が言われたように、こういったようなハード面だけではなくて、ソフト面が本当は一番大事なのだと。それが子どもの健やかな育ちになるし、子どもにとってやさしいまちなのだということを、ぜひ。また恐らく、ここだけの話ではなくて、上の話だと思うのですけれども、ぜひ、いろいろなところで言っていて、それが本当に子どもにやさしいまちなのだということ網羅するようなまちになっていただければと思う次第です。意見です。

(郷委員)

今、追加発言という形なのですけれども、私もこれをずっと見ていて、制度、制度なのです。それで、例えば、子どもたちの豊かな育ちを地域と一体となって推進と。地域には人がいますので、お店の利用料とか、にいがたっすこやかパスポートとかそういったものもとても大切だと思うのですけれども、何か人が欠けている施策だなと感じて見ておりました。ただ、この子ども子育ての中心になっている予算のことなので仕方がないのかなと思って見ていましたが、やはり、今、お二人が言われたように、子どもにやさしいまち、子ども条例に基づく施策の推進となっているからには、やはり、どのようなまちが子どもにとってやさしいのか、そういったことを子どもに聞く機会を持つとか、それがどこかの施策の中に入り込むとか、多分、そういうものができると、新しい取組みとして、やはり、新潟市は子どもにやさしい、子ども条例ができた政令指定都市としてとても光ってくるのではないかと思います。

例えば、ヤングケアラー・コーディネーターというのはとても大事だと思いますが、ヤングケアラーだと気づいていない子どもたちとか、多くの大人の人たち、学校の先生もそうですし、地域の方もそうだと思うのですけれども、そういった人たちに啓発していくとか、それが二人というのは驚いたのですが、もう少し、うまく言えないのですけれども、役職ではなくて、みんなで育てていくネットワークを作るとか、何かそういうものが明文化されていると、安心して、地域のものとして子どもと一緒に育てていくというような活動につながっていけるかなと思います。

(小池会長)

ご意見、ありがとうございました。先ほどの山岸委員の意見を聞きながら、次の議題の報告事項に進んだほうがいいのかなどと思いながら聞かせていただきました。この子ども・子育て会議で検討していく内容と、このあと、報告事項として、子ども条例等というものがだんだん認知していくような形で、子どもの育ち、権利を守るような環境づくりということと、子育て支援という二つの事項をどう一体的にやっていくかということについて、これから、最初にお話をさせていただいた次期計画も踏まえながら、皆さんと一緒に検討していく状況になってきたのかなと思います。この会議そのものが、最初は、やはり、乳幼児期の保育保障をどうしていくかということが出発点になっておりますので、そこからどう展開していくかということで、今、この時期になってきていると思います。そういうところにつながるお三方の貴重なご意見、本当にありがとうございました。

(事務局)

あくまで今回は新年度予算の抜粋ということでお示ししております、当然、地域の中で子どもたちのかかわり、区でもやっていますし、関係する部でもそれぞれやっております。新潟市全庁的に、先ほど申したとおり、子ども子育て施策、少子化対策を進めていくということで、全庁的に総合計画の中で進めていくということですので、見えないような、それこそサービスの質の向上の部分ですとか、ヤングケアラーの部分も、こども政策課で今年度、重点的に、教育関係機関ですとかそういったさまざまな機関への周知啓発というものをやらせていただいております。お時間の関係で全部お示しできなくて大変恐縮ですが、こういった状況です。

(小池会長)

総合計画は、子ども部会が一番意見を出したということです。3部会の中で一番出したという経緯がありますので、新潟市全体としても、当然、このように位置づけてくださっているということは認識しつつ、今いただいたように、では、それをどう実現していくかということについては、皆さんと一緒に確認しながら進めていければと思います。

ありがとうございました。それでは、まだお気づきの点等ありましたら、後ほど伺いたいと思います。続きまして、報告事項の1点目に移ります。新潟市子ども条例推進に係る取組状況について、事務局から説明をお願いいたします。

【報告事項】

(1)新潟市子ども条例推進に係る取組状況について

報告資料1 新潟市子ども条例推進に係る取組について

○事務局より、子ども条例推進の取組について、説明を行いました。

○委員からは、次の意見・質問がありました。

(小池会長)

ただいまの説明につきまして、皆様からご意見、ご質問等ありませんか。

(植木委員)

丁寧なご説明、ありがとうございました。具体的な周知啓発事業についてもよく分かりました。ありがとうございました。

そもそも、子ども条例の神髄といいますか趣旨というものは、子どもの意見表明が大人と同等に評価され、取り上げられるということだと思えるのです。さらには、それが市政に明確に的確に反映される、そういう道筋をつけるということだと理解しています。だとすれば、例えば、次年度のこの会議、あるいは、新しく策定が進められるであろう子ども計画といった具体的な市の施策に、具体的にどのように子どものそうした意見表明が反映されるのか。この辺りの道筋というかお考えをお聞かせいただきたいと思います。

(事務局)

ご意見、ありがとうございます。おっしゃるとおり、さまざまな市の施策、子どもだけではなくて、いろいろな施策をやられているわけですが、今現在、国でもこども家庭庁、こども基本法ができて、国の施策に子どもの意見を反映させるために、意見表明している子どもたちを募集したりしております。それで、本市におきましても、来年度以降、計画では、子どもが市政に参加する仕組みづくりという柱立ての中で、市のまちづくり制度について学んだり、まちづくりや制度について学んだり、意見交換を通じて、市政に参加できる仕組みづくりを検討していきたいと思っております。

それで、来年度、子どものアクションプランの次の計画ですとかその辺りに、具体的にどのように子どもの意見を反映させるかというところまでは、まだ詰められていない状況ではありますけれども、パブリックコメントによる意見募集の方法もありますし、あと、今、GIGAスクールの関係で、皆さんタブレットを持っていますので、そこで-googleフォームというツールで簡単にアンケートが取れたりします。また、来年度、子育てにやさしいまちづくりの中でキャッチフレーズを募集したりということも、今、検討が進められております。そういったいろいろな取組みの中で、学校、教育委員会とも協力しながら、意見を吸い上げるという取組みを進めていきたいと考えております。

(植木委員)

よく分かりました。イベントも大事なのですけれども、ぜひ、進めていただきたいと思いますが、一方で、イベントをやってよかったね、終わり、というようにならないようにしていただきたいと思います。そういった意味では、今のご返答のように、子どもの意見を吸い上げるということを進めていくということですから、次年度以降のこの会議においても、例えば、具体的に、この点については子どもの意見表明、子どもの声がどのような経緯で反映されたのか、どのようにしてそれが生かされたというようなことも、ところどころで説明いただけると大変よいかと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

ご意見、ありがとうございます。イベントも一過性ではなくて、イベントは比較的大人向け、幅広い層への周知という形になりますので、さらにSNSなども活用しながら周知を進めていきたいですし、子どもの意見を聞きっぱなしではなく、それがどう生かされたかという辺りもしっかりと留意しながら、取組みを進めたいと思っております。

(吉田委員)

小学校長会の吉田と申します。

私からは、学校現場の立場としてお礼を申し上げたいと思うのですが、新潟市子ども条例に係る周知啓発についての報告資料1の2ページ目にあるのですけれども、イベントにおける周知の手前に、幼児から小学校低学年を対象にした子ども向けの周知動画を作成ということで、学校に送っていただきました。実は、子ども条例に関しては、先ほどご紹介いただいた自主的な取組みということで、中学校でいろいろ生徒たちが自分たちで考えて、自分たちの権利ということで議論しているのですけれども、小学校は本当に発達段階に差がありまして、特に、低学年などは本当に大事な内容なのですけれども、少し当たり前すぎるというところもあって、正直言って、なかなかその大事さが子どもには分からない部分もあるのです。そうすると、結局、ということは、教師にとっても指導しづらい部分も、特に低学年はあると私は思っているのです。

それで、今回、このように動画を作成し、学校で活用させていただけるということはとてもありがたくて、それを使って子どもたちに指導できるということは、子どもの反応が見られますので、子どもたちがどのように感じているか分かり、それをもとにさらに指導につなげていけるのです。ですので、私たち

としては、現場の立場から言うと、大事なことは分かっているのだけれども、子どもたちに実際にどう具体的に投げかけていけばいいか、やはり、分からない部分もあり、このように市から動画を積極的に作っていただいて、指導資料として我々に示していただけるとするのは、本当にありがたいと思います。

当校、上所小学校は学年4クラスで、もちろん、低学年には見せたのですけれども、これは低学年が分かる動画であれば全校で見せようということで、全教室で簡単に見られますので、先生方に、空いた時間を使って見せてもらいました。こういった取組みを現場に投げかけていただけると、私たちも大変指導しやすくて、本当にありがたいと思います。

(事務局)

ご活用いただいて、ありがとうございます。この幼児期、低学年の動画は、やはり、権利とはそもそも何かという、ゼロ歳から18歳までの子どもが対象ですので、その辺りで作らせていただきました。動画であれば導入しやすいかなと思いましたが、ぜひ、引き続きご活用いただければと思います。できるだけ負担が大きくなるように、活用しやすい形でのサポートをしっかりとさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(小池会長)

ちなみに、市民も見られるようになっているのでしょうか。

(事務局)

こちらはユーチューブの新潟シティチャンネルに動画を掲載しております。子ども向け動画も、実は、ユーチューブを見ていると広告が入ると思うのですけれども、あれでたまに再生されていました。そうしたら2万7,000回再生されていました。以外と大人も見ているっぽいなというところです。

(小池会長)

ぜひ、委員の皆様もということで、よろしく申し上げます。

公募で参加していただいている委員も少しご発言いただけるとありがたいのですが、眞杉委員、いかがでしょうか。

(眞杉委員)

私は子どもが3人いて、まだ一番上の子どもでも年中なので、なかなか権利というところは、すみません、伝えようとしても伝わらない部分が多いのかな

と思います。あるのが当たり前なのが権利なのですけれども、それがそもそも分かっていないというのが幼児期の子どもだと思いますので、私も家に帰って改めて動画を見せたいと思います。

(小池会長)

深海委員、いかがですか。

(深海委員)

うちは子どもがまだ3歳なもので、権利に関しては本人が理解できないと思うので、私がこの動画をしっかり見たいと思います。動画があるということも私は知らなくて、ここで始めて知ったので、再生回数がたくさんあるということなのですけれども、周知できるといいなと思います。家に帰ったら見たいと思います。

(小池会長)

星井委員、一言いただいてもよろしいでしょうか。

(星井委員)

私もこの動画があるということはここで知ったのですけれども、そのような動画を見て理解できるかということはまだ分からないのですけれども、家族で見て、娘に伝えられるところがあれば伝えて、そういうものを大切にしていこうということを周知したいと思います。

(小池会長)

もう1点報告事項がありますので、先にそちらに進ませていただきながら、最後、また全体のところで少し戻ってご意見などがあれば、時間を取りたいと思います。

それでは、報告事項の(2)乳幼児健康診査のありかた検討会の開催報告について、事務局から説明をお願いいたします。

(2)乳幼児健康診査のあり方検討会の開催報告について

報告資料2 令和4年度乳幼児健康診査のあり方検討会報告書

○事務局より、同検討会の開催概要について、説明を行いました。

○委員からは、次の意見・質問がありました。

(佐藤委員)

医師会からの要望に対して、非常に真摯にこども家庭課で検討していただいて、いい会議ができたと思います。

ここにも書いてありますように、小児医療はけっこうぎりぎりになっていて、急患センターも維持できない状況になっているのが現状です。それで、乳幼児健診に関しては、今まで私たちはお手伝いのような感覚で、つまり、行政の人たちが一生懸命やっているのに、そこに診察の部分だけ私たちが行って、慌てて帰ってきて自分の医院でまた診察すると。なので、小児科医の側からはお手伝い感覚がとてもあったので、そうではなくて、地域で医療をやるということはそういうことをしっかりやることなのだとということを意識づけしたかったので、研修会を企画して、今ほど堀課長が言われました研修会も、実は、Zoomでやりましたので、県内からも参加した人がいて、六十数名ですか、かなり多く参加して、やはり、小児科医の中ではそういう意識がとて強いのだなということが分かりました。

それで、妊娠中は産院に毎月のように行って、生まれると今度は産科を離れて、今度は1か月健診を保健師がやって、2か月になって予防接種で小児科の先生に初めて出会って、3か月。それまで毎月のようにあったのが突然3か月、終わると10か月健診、あとは1歳半まで地域の保健師たちは会えないのです。その現状を詰めることがとて重要で、健診というのは決して医師が診察することではなくて、それ以外の部分、多職種連携がとて鍵だと思っています。それが今、できていないので、それを何とか、この名簿を見ても分かるようにいろいろな領域の方々が入っていますので、多職種で健診を作り上げることが、今後もやっていただければと思います。ぜひ、今後も課題として引き継いでいただいて、検討していただきたいと思います。

(小池会長)

ご説明、ありがとうございました。また、座長を務められた佐藤委員、ありがとうございました。

皆様からご質問、ご意見はありませんか。

(海津委員)

市歯科医師会の海津と申します。

今、佐藤委員が言われたように、ここに小児科医の減少と高齢化と書いてありますが、歯科の分野でも新潟市は高齢化がかなり進んでおります。こういった1、6、3歳の健診の配当にかなり苦慮して、大学病院にもお願いしているのが現状です。

今、1、6、3歳が、以下の先生が見ているとおっしゃっていたのですが、新潟市では1歳児の歯科の健診をやっております。そこでは、私は秋葉区なのですが、秋葉区の例を言うと、栄養士、保健師がいまして、ちょうど1歳になると離乳食を食べるころになりますので、そういった食事の面を、初めて出産

して何も分からない状態でどういうものを食べさせたらいいのか、大人と同じものを食べているのだけれども、みたいな感じの例もありますので、そういったアドバイスとか、すべてワンストップでできるような環境を作っております。そういったものが全区で、1、6、3歳の健診でワンストップですべて、保護者、受診する乳幼児が効率的に終われるような健診を今後も継続していただければと、行政にもお願いしたいと思います。

(事務局)

1歳、誕生歯科健診、所管の保健所などと、いただいたご意見を共有してまいりたいと思います。

(椎谷委員)

1歳半健診や3歳健診のときに、お母さんやお父さんから何かご意見をいただくことはありますか。というのは、1歳半健診になりますとときどきするか、何か言われるのではないかというような気持ちで受けられる方とか、行って見て、やはり少しときどきしましたみたいなことを言われるお母さん方がとても多いのです。ですので、例えば、1歳半健診のご案内のときに、安心できるような文面ですとか、こういったことをしますよと。なので、安心してきてくださいねというような、安心感を持たせるような工夫もしていただけるとありがたいと思います。

(佐藤委員)

会の中でも出たのですが、多くのお母さんが試験を受ける気持ちで参加していると、これがやはり問題なのではないかと思います。私は、健診というのは、確かに名前のおりで健康診査だったのだけれども、今は子育て支援の仕組みがとてもあるので、その面を少し強化していったほうがいいのではないかという議論は会議の中でもありました。

(事務局)

ご案内の段階であまり細かくお伝えすることは難しいと思いますが、ただ、一方で工夫の余地はあろうかと思っておりますので、今後の検討とさせていただきます。

(小池会長)

そのほかにもご意見を聞きたいところなのですが、一旦、この議題につきましてはここで閉じさせていただいて、今日、いくつかの議案と報告事項をさせていただいた中で、皆さん、お気づきの点、特に、今回の会議でまだご発言のない方、一言感想等をいただければと思います。

先ほど、眞杉委員は少し戻ってということでしたので、一言お願いします。

(眞杉委員)

私は公募委員で入っていますが、普段は行政機関の端くれをやっております。

その中で、予算についてお尋ねしたいと思います。先ほど、なかなか行政の予算の中で人に寄り添うというのはなかなか苦手な部分ですので、その中で新設の予算であるとか独自の予算をたくさんつけていただきまして、子育てをしている市民としてもありがたいと思っております。

それで、質問したかったのが、今回、いろいろ新規だとか拡充でついでにありますが、令和5年になってなくなってしまう事業があるのかをお尋ねしたいと思います。

あと、資料3のすべての子どもが豊かな子ども期を過ごせるまちなにの一番下に子育てを応援するまちづくりの推進とあって、今ほど情報発信とあったのですが、具体的にこの新規の事業で何を想定されているのかをお尋ねしたいと思います。

(小池会長)

1点目については、すぐには難しいですか。

(事務局)

なくなるものは基本的にはないのですが、ただ、不妊治療の部分が国の保険制度に切り替わっていますので、残っていた部分が来年度全くなくなるくらいで、基本的にはさらに充実していくというスタンスです。

(小池会長)

2点目の情報発信について、具体的なということ。

(事務局)

5ページの一番下のところの子育てを応援するまちづくりの推進で、情報発信と書かせていただいているのですが、こちらなのですが、機運醸成とか情報発信という言葉に、簡単になってしまっているのですが、先ほど来ご意見をいただいていたとおり、地域で子どもたちとか子育て中の人への優しいまなざしではないですが、そういった社会的な雰囲気、精神的な負担を和らげるための、制度とかそういうものではなくて、気持ちの部分という、そこが本当にかぎというか、目指したいところです。

ある委員会の中で、いろいろな制度を新潟市はやってきているのだけれども、それがなかなか、本当の当事者になったときに初めて分かるようなものも多いとか、知られていないのではないかなというようなご意見もありまして、本当に必要な当事者の方に知らせなくてはというの、これまでも頑張ってきましたし、必要なのですけれども、今、当事者でなくても、これからの方、要するに若い方とか、または子育て世帯を取り巻く社会というか、周りの地域の

方々もそのように新潟市は子育てのためのいろいろなやさしい取り組みをしているのだなということを知っていただきたいと。本当に機運の醸成という言葉になってしまうのですが、ここに書いてあるすこやかパスポートとか赤ちゃんの駅という事業は、民間事業者の、本当に協賛で成り立っている事業で、善意の協賛なのです。

すこやかパスポートも、例えば、スーパーなどで5パーセント引きになる日があるというものですが、それもお店のご厚意で、別に5パーセント引きになる券というわけではなくて、子育て中の方に何か優しい気持ちを表すような、おまけとかサービスというものをやれる範囲でやっていただきたいと。そこに協賛してくださって、では、うちの店はこういう恩恵をあげましょうとか、何かサービスをしましょうということによっていただいていたたり、そういうことで子育てにやさしいまちという、本当に機運が広がっていくことに期待しているところです。

赤ちゃんの駅なども、子ども連れの方のお出かけで、迷惑だと思われているのではないかという意識を持っている方が、あるアンケートで割合が多かったのですが、それに反して、今、子育て中ではない方が、アンケートで迷惑だと思っていないと。それで、何か手助けができるならしたいという意見が実は多いのですが、そこに逆のギャップがあって、そういう、本当は手助けをしたいのだけれどもどのように表現したらいいか分からないとか、今どきですと、変に声をかけたりじろじろ見るのも何か変なふうに思われるのではないかとか、そういった意識も働くと思いますので、そういうところの機運醸成にそれこそ努めたいなと思い、いろいろなピンポイントの情報発信に加えて、幅広く発信していきたいなといった意味での情報発信を、さまざま工夫してまいりたいと考えているところです。ぜひ、いろいろなご意見やアイデアをいただけたらと思っております。

(小池会長)

それでは、公募委員でもう一人、来ていただいている違委員、お願いします。

(違委員)

違です。

今ありましたすこやかパスポートも大変活用させていただいております。ありがとうございます。新しいものも届きまして、また来年度も活用させていただきたいと思っております。

子育て条例も、小学生の子どもが授業でやってきまして、その授業をやったようすというものを親にフィードバックするようにといった宿題をいただいて、親とも共有しました。パンフレットもいただいてきました。それで、去年でしたか、イラストのコンテストが啓発活動でありまして、それも私たちの小学校の4年生が全員応募したということでやりまして、興味を持っております。またよろしく願いいたします。

(小池会長)

長谷川委員、一言いただけますか。

(長谷川委員)

新潟市小中学校PTA連合会副会長の長谷川です。

新潟市子ども条例についてなのですけれども、私も、うちの一番下の娘が小学5年生で、やはり、学校の授業でやりましたので、パンフレットを持ってきました。私も、何だこのかわいいパンフレットと思って、ぱらぱらと見たのですけれども、今の子育ての状況の中で、このパンフレットを自宅に持って行ってどれだけの親が目を通されたのかなというのが、正直、疑問です。地域の方々にも知っていただきたいというのはもちろんなのですけれども、まずは、親、家族の方々に知っていただくことが重要なのかなと、今回、感じました。

その中で、ここは校長先生にお願いという形になるのかもしれないのですけれども、ぜひ、授業参観の中で、先ほどのユーチューブの映像を親の目に触れる状態かどうか、流していただいて、授業している風景を見ていただいたり、ここは私たちPTAになると思うのですけれども、PTA総会で流したりという。とにかく、見るであろうと思われているけれども見ていない方々は意外と多いので、そういうところで活用する方法、見ていただくための活用方法を考えていかなければいけないのではないかと感じましたので、こちら市P連に持って帰って検討させていただきたいと思います。

それと、新潟市子育て市民アンケート調査結果の概要の4ページの間2なのですけれども、多数の方が、やはり、答えやすい、子育てに関するお金のことを取り上げているのです。実際にお金がないと確かに子育てが大変なのは、私も子どもが6人いるので分かります。とてもお金がかかります。しかし、実際には、大多数で出ている回答よりも、私は逆に「育児に自信がないから」とか「子どもが苦手だから」とか「少ない子どもに手をかけて育てたいから」とか「育児に家族の協力が得られないから」という、ごくごく少数なのですけれども、個々の意見はとても大きな問題だと思っています。やはり、子どもが苦手だというのは、小さいときから子どもと接することがない方であったり、育児に自信がないというのは、自分ではなくて、他人と比べて育児をされている方であったり、逆に言うと、先ほどの情報量が多すぎて選べないということだったり、そういうところに何かこたえて寄り添ってあげられるような支援があるといいのかなということを今、とても強く感じています。

やはり、子ども一人を大人にするのはとても大変なことですし、回答率も母親が多いというのは、やはり、女性一人、ワンオペでやっている方が多いのだらうと思います。そこも含めて、これから子どもたちのために、ぜひ、皆さんで今後も考えていけたらいいなと、今日、感じました。

(小池会長)

鈴木晴美委員、一言いただけますか。

(鈴木(晴)委員)

鈴木です。よろしくお願いします。

私は、アンケートのことなのですが、問2のところ、高校生とか大学生とかそういった大きくなってからお金がかかるということで、私も実際に今、大学生と、これから大学生になる子ども二人を一人で育てています。それで、子どもたちが小さいときにお金はもちろんかかりましたけれども、一番お金がかかるのはこの時期なのです。そこに支援をとというのもあるのですけれども、そういった小さい子どもたちを育ててきた母親や、うちは父親がいませんけれども、そういった人たちだからこそ分かる、小さいときにあったらよかったなということがきっとあると思うのです。そういったことを何かの機会でお聞きする機会をぜひ作っていただいて、それを生かしていただけたらと思っております。私の個人的な意見を言わせていただきました。

(小池会長)

茨木委員、最後、今日初めてということなので、一言だけいただけますか。

(茨木委員)

本当に初めてということで、皆様のご意見をお伺いしながら、正直なことを言いますと、頭がついていかなかったです。事前に資料は読んできましたけれども、読み方も中途半端だったなということですか、もっと自分でプラン、子育てですとか子どもの育ちに自分自身がどのようにかかわっているのかを自分なりに考えつつこの会議に参加するべきだなということを今日は改めて考えさせていただきました。

ただ、一言ですけれども、私は犬を連れて散歩するのですけれども、そんなときに、小さい子どもを連れてお母様方とよくお会いします。こちらからごあいさつして少しいろいろなお話をすると、とてもうれしそうにして帰って行かれますし、子どもも、じゃあさようなら、タッチしようかと言うと、きちんと応じてくださいます。そういう地域での、先ほどのいわゆる温かい育ち、子ども時代というお話がありましたけれども、地域でのそういうものも大事なのだなということを思うと、今日はまず、予算等で具体的な施策が中心になりましたけれども、先ほどからあった、では、地域の温かい子育てというものがどういふものなのかということを考えられたらいいのかなということ、頭で一生懸命ついて行こうとしましたけれどもついて行けなかったのも、メモだけしっかりさせてもらいましたので、家へ帰ってまた復習しつつ、次回の備えたいと思います。本当に雑ばくな変な意見で失礼しました。

(小池会長)

ありがとうございました。

すみません、進行がまずくて時間をおしてしまいましたけれども、予定してありました議事及び報告事項につきましては、以上で終わらせていただきたい

と思います。

それでは、進行を事務局にお返しします。